

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	経営管理特論	
科目基礎情報							
科目番号	0031			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	経営情報工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	前期:4		
教科書/教材	会社はこれからどうなるのか (岩井克人, 平凡社) ほか						
担当教員	松野 成悟						
到達目標							
(1) 経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができる。 (2) コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができる。 (3) ポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方を論じることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができる。 8割以上		経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができる。 7割以上		経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができる。 6割以上		経営管理と企業論の史的展開を理解し、今日的な課題を説明することができない。 6割未満
評価項目2	コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができる。 8割以上		コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができる。 7割以上		コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができる。 6割以上		コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができない。 6割未満
評価項目3	ポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方を論じることができる。 8割以上		ポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方を論じることができる。 7割以上		ポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方を論じることができる。 6割以上		コーポレート・ガバナンスに関する議論を整理し、考察することができない。 6割未満
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	第2学期 ※実務との関係 この科目は企業で情報システム部門の管理や組織再編などに携わっていた教員が、その経験を生かし、経営管理や企業論などについて講義形式で授業を行うものである。 経営管理と企業論の史的展開について講義する。また、コーポレート・ガバナンスに関する議論やポスト産業資本主義的企業における経営管理のあり方などについても検討する。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施します。 教科書を輪講する形で授業を進める。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		・シラバスを通じて、学習の意義や授業の進め方、評価方法などを理解できる。		
		2週	現代企業の経営管理		・現代企業の経営管理の現状と動向を理解できる。		
		3週	コーポレート・ガバナンス①		・法人の存在理由と会社のしくみについての再検討の要請が理解できる。		
		4週	コーポレート・ガバナンス②		・コーポレート・ガバナンスについて、経営者の信任義務を理解できる。		
		5週	コーポレート・ガバナンス③		・コーポレート・ガバナンスの実際について、アメリカの代表事例を理解できる。		
		6週	法人論争と日本型資本主義①		・法人論争の概要と日本型資本主義の特質を理解できる。		
		7週	法人論争と日本型資本主義②		・組織特殊的な人的資産とホールド・アップ問題を理解できる。		
		8週	法人論争と日本型資本主義③		・日本型資本主義の起源と雇用システムの原型を理解できる。		
	2ndQ	9週	法人論争と日本型資本主義④		・資本主義の史的展開と経営管理論の系譜を理解できる。		
		10週	ポスト産業資本主義における経営管理①		・ポスト産業資本主義におけるデ・ファクト・スタンダードとコア・コンピタンスを理解できる。		
		11週	ポスト産業資本主義における経営管理②		・ポスト産業資本主義的企業における組織デザインを理解できる。		
		12週	ポスト産業資本主義における経営管理③		・ポスト産業資本主義的企業における個人と組織の関係、および企業の社会的責任を理解できる。		
		13週	知識マネジメント①		・知識マネジメントの意義や理論的な背景を理解できる。		
		14週	知識マネジメント②		・知識マネジメントの方法論について、情報技術とビジネスプロセスとの関係性を理解できる。		
		15週	定期試験				
		16週	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施		・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解できる。 ・全体の学習事項のまとめが理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0